

ダイワハイテックス

ダイワハイテックスは「コミックシュリンカー」と呼ばれる包装機を投入

し、コミック包装市場をつくった会社だ。1978年、大石孝一社長は妻と2人で創業。当初はさまざまな包装機を製造・販売していたが、81年からコミック

入。当初は販売で苦戦も強いられたが、徹底的な顧客第一主義の営業手法

を貫いた。製品コンセプトは、立ち読み防止ではなく、きれいな本を提供する、ということを強調した。自身が確認できるように見本用の本を置いて欲しいと営業時には書店に呼びかけている。

こうした取り組みの結果、国内のコミック包装機市場でシェア90%を占める業界トップ企業に成長した。07年1月期の売上高は10億7700万円に達する。

また、新規顧客の取り込みではなく、既存顧客に何度も繰り返し利用してもらえるか、を重点に置く。企業イメージを大切にすため、電話の受け答えなど社員教育も徹底的に行ってきた

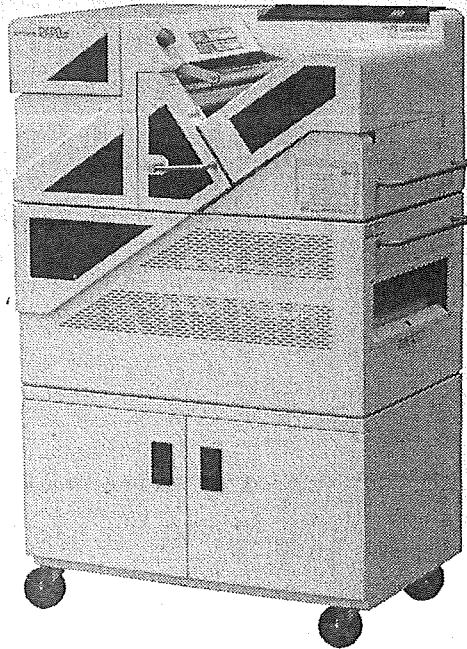
今後は、02年から新規事業として開始したエコ事業に力を入れていく。環境問題に対応した有機廃棄物処理プラント、減圧脱水乾燥装置の製造・販売を行うもので、第二の柱に育てていく。大石社長は、「規模が小さくても足腰の強い会社」を目指している。

包装機の開発に特化している。コミック包装機を開発したきっかけは、偶然ある書店の幹部から「コミックを包装できないか」という要望を聞いたこと。大石社長は書店の売り場を徹底的に見て回り、本の購入者の動向を観察した。「誰でもきれいな本を買いたいはず」と、書店の立場ではなく、顧客の立場から商品開発を決定した。

81年に1号機を市場投

徹底的な顧客第一主義

コミック包装機でシェア90%



コミックシュリンカーラポLS II